

# 甲賀市の文化財③①

北脇遺跡出土の銅印

平成18年度に実施した北脇遺跡第5次発掘調査で青銅製の印鑑が出土しました。北脇遺跡の周辺には泉古墳群や古墳時代の大規模集落の植遺跡、奈良時代の集落跡の下川原遺跡、近江地域で最古の須恵器窯である泉窯、平安京をはじめ西日本一円に緑釉陶器を供給した春日峰道窯・春日山の神窯などがあります。さらに、旧東海道は平安時代の斎宮への道として利用され、重要な街道と位置づけられます。

出土した銅印は正方形の印面と分銅型のつまみを持ち、つまみには紐を通す穴が空いています。

印面の大きさは縦横3.5センチ、銅印の高さは3センチ、重さ64グラムの铸造品です。印面には「徳西庶家」の4文字があります。



滋賀県内で6例目の銅印ですが、4文字は県内で初の出土です。銅印の性格は、最後の文字が「家」であることから私印と考えられ、「類聚三代格」に記載されている「私印は一寸五分（約4.5センチ）を超えることのないように」という規定にも合致しています。

「庶」には「嫡子」に対する対義語で「庶子」という意味があり、「本家」に対して「庶家（分家）」という意味になります。

「徳西」については、中世の「山中文書」に「徳地」の名が確認できること、北脇周辺に「徳地」姓が多いことなどから、調査地周辺に「徳地」一族が古

代から居住し、「徳西庶家」は徳地本家に対して西側に位置する分家を指すと考えられます。

銅印の年代は、つまみの形から平安時代に相当します。発掘で出土した須恵器や緑釉陶器の年代とも一致します。さらに、成分分析の結果、銅・鉛・ヒ素の合金であると判明し、平安時代の特徴を有しています。

銅印の出土によって、北脇近隣に青銅製の私印を所有していた有力豪族がいたと推測できます。また、北脇遺跡第4次発掘調査で見つかった鍛冶工房や近隣の春日での緑釉陶器生産との関連性から北脇遺跡の性格が一般的な集落遺跡ではない可能性が想定できます。

北脇遺跡で銅印が発見されたことで、歴史上での注目度が上がることは間違いありませんが、発掘調査事例が少なく、推測の域を出ません。銅印の意味やまだ見ぬ氏族の名前の解明も含めて、今後の調査の進展に期待したいと思います。

## 介護予防をはじめましょう!

◎そろそろ体を動かしてみませんか?

体を動かしやすい気候になってきました。「寒い間はどうしても体を動かすことが少なくなって…」という方も、少しずつ体を動かしてみましょう。

まずは足の指や土踏まずの手入れから

①隣同士の指をつまみ、前後に動かし、リラックスさせる。



②親指と小指をつまみ扇のように広げる。



③手の指を1本1本足の指の間に入れ、指をそらせて足底筋を伸ばす。



④両手の親指で土踏まずと湧泉(中央のくぼみ)を押す。



⑤両手の親指で足の指の爪を押し、刺激する。



効果

足の指をほぐし、バランスをとったり踏ん張ったりする能力を高める。外反母趾などの変形や障害を予防したり、改善したりします。運動の前後、入浴時や就寝前に行なってください。

問い合わせ

保健介護課 介護保険担当  
☎65-0697・0699 FAX63-4085